

■ 目次	友の会行事のご案内 ～総会・市民文化講演会・呈茶～	1
	2013年度(後期)吉田東伍記念博物館友の会事業報告	2
	会員随想	3
	サロン・コンサートVol.11 / 友の会伝言板 / 編集後記	4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1(阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html E-mail y.togo@oregano.ocn.ne.jp

友の会行事のご案内 平成26年5月18日(日) ～総会・市民文化講演会・呈茶～

平成26年度 吉田東伍記念博物館友の会総会

日 時 / **5月18日(日) 12:30** ※引き続き市民文化講演会・呈茶を開催します
会 場 / 市立吉田東伍記念博物館
議 題 / 平成25年度事業報告、平成25年度決算報告、役員改選、
平成26年度事業計画(案)、平成26年度予算(案)、その他

市民文化講演会2014「安田町史編さん室の思い出」

『安田町史』の編さんは、昭和55年の安田町の町制施行20周年記念事業として開始され、平成16年に近世編四を刊行して終了しました。講師の廣田康也さんは、編さん事業に携わり、「広報やすだ」に「ふるさと風土記」を連載されました。郷土の歴史を叙述するため、古文書を解読し、現地を歩いた町史編さん室の調査研究活動の思い出を振り返る市民文化講演会に是非ご参加下さい。

主 催 / 吉田東伍記念博物館友の会
日 時 / **5月18日(日) 13:30～14:30 (13:15開場)**
会 場 / 市立吉田東伍記念博物館 付属「吉田東伍生家」大広間
講 師 / 廣田康也氏 (元安田町史編さん委員会委員長、吉田東伍記念博物館友の会会員)
申し込み / 資料準備の都合上、前日までに博物館へお申し込み下さい
入 場 料 / 友の会会員 無料 ※友の会会員以外の方は博物館入館料(一般300円、小・中150円)が必要です。

呈茶

市民文化講演会終了後、平成25年11月15日に亡くなられた唐橋久美子さんを偲ぶ呈茶を開催します。唐橋さんは、安田町史編さん室、市立吉田東伍記念博物館に勤務され、安田町文化協会、吉田東伍記念博物館友の会などの文化活動に活動されました。

日 時 / **5月18日(日) 15:00**
会 場 / 市立吉田東伍記念博物館 付属「吉田東伍生家」大広間
参 加 費 / 無料

2013年度(後期) 吉田東伍記念博物館 友の会事業報告



第14回研究発表会 3月16日(日) 13:30~15:30

発表テーマ 戦後の衣・食・住の移り変わりによって見えてくるもの

発表者 吉田東伍記念博物館友の会会長・長谷川明一さん

発表要旨 (発表資料「はじめに」)

私は40年近く(昭和40年~平成10年)、農食の生産及びその教育の現場に関わった。その間、その時々々の社会経済現象、特に昭和35年(1960年)から昭和45年(1970年)にかけてのエネルギー文明の転換によりもたらされた高度経済成長期の衣食住環境が、戦前80年かけてできなかったことを戦後20年で可能にした。

そこで思い出すことは、戦後の食糧難、廃墟からの復興、一次エネルギーの転換による高度経済成長、公害環境汚染問題、地球温暖化問題など、これら近代科学技術に代表される近代文明も、原発エネルギーに象徴される脆さに翻弄される今日でもある。本来人間は生きものであり、自然の一部であるということを基本に置く社会づくりから、かけ離れてしまった。

常々私の胸中にあることは、終戦後食糧難を体験した親父からいやというほど聞かされたことがあった。それは、家族4人の飯を確保するために一日足を棒にして歩き回っても、手には入らなかったことが生涯を通じてあれほど惨めな思いはなかったと、繰り返し聞かされて育った記憶が鮮明に残っている。戦後23~28年まで田畑を開墾し自給食料を作り、今日まで荒らすことなく作り続けている。わが家の基本は自然の力を借りて、作り手の見える安全で新鮮な旬の食材を作ることにつながりを護り続けてきた。1989年のバブル崩壊後も相変わらず量的拡大と利便性を進捗と捉え、科学技術によってそれを具現化し、自然から離れた人口世界を構築してきた。

昨年和食が世界無形文化遺産登録された。「和食とは日本人の気質に基づいた食に関する習わし」とある。生きること、作ることの基本は自然の生態系を活かすこと。「自然界の物質代謝 生態系(植物)→生命態(動物)→分解者(微生物) 循環型サイクル」。以上のことから、いくつかの問題を取り上げ、一緒に考えてみたい。

発表要旨 (発表資料「むすび」)

戦後の復興は、一次エネルギーの転換によって、加えて日本人の勤勉さと努力で、見事に乗り切ることができた。

昭和35年の経済白書で「もう戦後ではない」と宣言し、以降、高度経済成長時代の幕開けとなり、神武・岩戸・いざなぎ景気の循環を経て、様々な社会問題や教育問題、環境問題、農業問題など、きわめて深刻な問題を生み出すことになった。

その間、われわれ国民は、成長の量的拡大を是認し、その利得や利便性を社会の進歩と捉え、自然の摂理から離れた人工世界を日本列島に構築してきた。最近ではグローバル金融経済がこれをさらに加速し、直近の効率と経済のみで事を判断するような事に至り、原子力エネルギーに象徴される近代科学技術の危うさや、そのもろさが現実のものとなっている。これからの日本は自然に根ざした地域風土の力を伸ばし、近代化の技術を見直していく方向性を模索すべきと考える。それは人間も生きものであり、自然の一部であるということを基本に置く社会づくりの変換が求められる。

『聞き書き ツベタ牧場の人々』を読み終えて

友の会会員 旗野佳子 (はたの けいこ)

私は『ツベタ牧場の人々』の刊行をずっと心待ちにしていた一人です。

早くから波多野透氏が「聞き書き」を大切にしておられた事は知っていました。ただ、そのままでは少し読みづらく解りにくいということもあって、数年かけて改訂され、2013年に刊行されました。

旗野家の先人、偉業をなした方々。そのひとり一人の人物にスポットを当てても一冊の本ができてしまうほどなのに、201ページにわたる内容の濃さには本当に驚きます。歴史に興味のある方はその視点から、人物に興味のある方はその視点で読み進んで行かれると、非常におもしろいと思います。安田の歴史を知る上で貴重な一冊と言っても決して過言ではないでしょう。

子供の頃、盆前になると父母から「本家が大事だから、お墓の草取りに行ってくるように」と言われ、姉と草取り鎌を持ち、本家と自分の家の墓掃除に仲良く行ったものです。その広い敷地内には、いくつもの墓が建っていて、子供心にいつも不思議に思っていたのは、「小川貞子」「戸田強三」と刻まれたお墓があって、「これ誰のお墓だろう

ね」と首を傾けて手を合わせてきたものです。その謎も『ツベタ牧場の人々』25ページ、41ページのおかげで、今はすっかり解けましたが。

美乃里氏について、父は生前娘の私達にこんな事を話していました。「新潟に初めて牛を三頭連れてきて、ツベタで牧場を始めたけれども、バターなどまだ誰も食べない時代で成功しなかったんだよ」と。

波多野透著『畜産の先覚者 旗野美乃里ものがたり 聞き書き ツベタ牧場の人々』を是非読んでいただきたいと思います。1875年～1932年、その生きた時代に持てる力のすべてを出して駆け抜けて行った美乃里^{だんな}旦那。

今の安田には、下越酪農、あじさい野牧場、乳製品のヤスタヨーグルト、愛情牛乳など、地場産業として根ざしているものが沢山あります。美乃里^{だんな}旦那の先見の明は誰よりも確かで大成功だったのではないのでしょうか。

刊行にあたりご苦労されました皆様一人の読者として、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

『聞き書き ツベタ牧場の人々』

博物館で発売中！ 吉田東伍の甥・美乃里の評伝
絶版名著、待望の解題改訂版、博物館叢書シリーズのⅠとして登場



新潟県酪農発祥の地、県下初の民間牧場
「ツベタ牧場」の栄枯盛衰。

波多野透・著

『聞き書き ツベタ牧場の人々』

畜産の先覚者 旗野美乃里ものがたり』

B6版 202頁 阿賀野市立吉田東伍記念博物館・発行
1,800円（税込）

吉田東伍記念博物館友の会 サロン・コンサート Vol.11

懐かしい日本の叙情歌を聴き、
そして、歌う、ミニ・コンサートです。

♪♪♪ 叙情歌の愉しみ

日時／平成26年 6月12日(木)

14:00開演(13:30開場)(15:00終演予定)

会場／市立吉田東伍記念博物館 付属「吉田東伍生家」大広間

主催／吉田東伍記念博物館友の会

入場料／友の会会員は無料。

会員以外の方は通常入館料(一般300円、小中学生150円)が必要です。
申込不要。当日会場にお越しください。

出演／鈴木 基子さん

プロフィール

自宅のピアノ教室で子供から大人までのピアノを指導。平成18年より毎週水曜日の朝8時半～55分まで、水原郷病院ホールでボランティアのミニコンサートを行う。阿賀野市「女声コーラス向日葵」、阿賀町「阿賀野川混声合唱団」ピアニスト。阿賀野市音楽協会代表。

…… 友の会伝言板 …… 事務局より

①白河荘を歩く会≪5月例会≫を開催します!

日時：5月8日(木)13:00集合(15:30解散予定)

集合場所：市立吉田東伍記念博物館

内容：石船戸遺跡(阿賀野市堀越地内)の発掘現場と、水原ふるさと農業歴史資料館で展示中の「遮光器土偶」を見学します。

(遺跡の詳細は同封資料をご覧ください)

申し込み：5月5日までに博物館へ

②「ちあきの会」の平成26年度総会&コンサート(琴の演奏)が、5月25日(日)午後開催されます。会場は、吉田千秋の生家(新潟市秋葉区大鹿624)。詳しくは、吉田東伍記念博物館友の会事務局にお問い合わせください。

③3月16日(日)に運営委員会を開催しました。新年度の事業計画の策定を中心に、今後の友の会の活動を展望する貴重な時間になりました。

④阿賀野市所蔵近現代美術品展Ⅳ・特別企画展「竹久夢二と阿賀野展」～至宝 二瓶コレクション Part 1～が開催されました。会期は、11月1日～12月25日。ギャラリートーク「夢二を追いかけ半世紀」(11月10日)で、百都政弘さん(吉田東伍記念博物館友の会副会長)がお話されました。

⑤11月23日(土祝)の秋の研修旅行は、牡丹山の古墳、新潟市江南区郷土資料館、新潟市文化財センター、緒立遺跡、の場遺跡など、新潟市東区・江南区・西区の遺跡と文化施設をめぐるりました。

⑥『友の会通信』の原稿を募集しています!「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。



▲新潟市江南区郷土資料館を見学



▲百都政弘さんによるギャラリートーク

編集後記



▲春は出会いの季節。新しい人、新しい職場・学校、新しい生活。毎年迎える季節ですが、何だか新鮮でワクワクした気持ちになります。▲平成26年度は吉田東伍生誕150年。そして、新潟地震50年、7・13水害10年、中越大地震10年。節目の年は、振り返りと「これから」を考えることが大切です。歴史に学び、一步一步着実に、前を向く一年にしたいと思います。(H・T)